

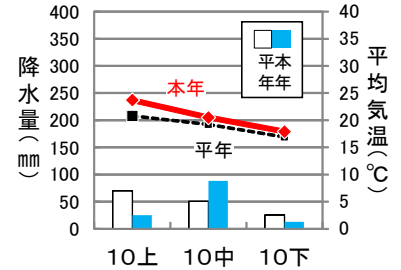


農作業一口メモ (平成28年11月号)

鳴門藍住農業支援センター
鳴門藍住地区農業生活指導班会

気象 <四国地方 1ヵ月予報(11月5日~12月4日)>

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の降水量は、平年並みまたは少ない確率40%です。日照量は、多い確率50%です。週別の気温は、1週目、2週目とも平年並みの確率50%です。
(平成28年11月3日高松地方气象台発表より抜粋)



だいこん <11月の管理について>



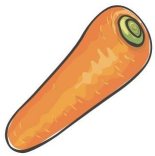
- 11月上旬から収穫が始まります。収穫適期を逃さずに品質の良いダイコンの出荷に努めてください。
- この時期は1日の気温の差が大きいため、病気が出やすくなります。雨が多い時は、予防のための早めの農薬散布が重要となります。また、肥料切れを起こしやすいので追肥の時期や量に気をつけてください。逆に雨が少ない時は、かん水が必要となります。また、アブラムシ等の発生に注意してください。

ブロッコリー<定植後の管理について>



- 初期生育促進のため、1回目の追肥を活着直後の定植後10~14日頃に行います。一回の追肥の目安は、10a当たり窒素成分で3.5~4.5kgです。
- 追肥時に雑草の発生防止と株の倒伏防止のため、土寄せを行いましょ。
- コナガ、ヨトウムシ類は大量発生すると防除が困難になるため、早めの防除を心がけましょ。

にんじん <11月の管理について>



- 播種前に土を十分に耕耘し、保水性と通気性を高めておきましょう(土壌水分過多は厳禁)。
- しみ腐れ病の発生が多い圃場では、は種前にユニフォーム粒剤を散布ましょ。
- 近年、11月でもトンネル内がかなり高温になっています。換気は気象変化と生育に気を配りながら行いましょ。

なのはな <11月の管理について>



- 追肥をやいましょ。2週間おきに硫安、硝磷安加里(S604)またはNK化成を15~20kg/10aが目安です。追肥のあとは中耕、土寄せましょ。
- 土が乾燥したら灌水ましょ。大雨前には排水溝を整備ましょ。
- アブラムシ、ヨトウムシを防除ましょ。
- 昼間にしおれる株は根こぶ病の可能性がありましょ。根にこぶがないか確かめましょ。

らっきょう <11月の管理について>



- ネダニ、アザミウマの防除時期です。早めの防除に努めましょ。

たまねぎ <定植について>



- 葉数3～4枚で、太さ5mm、高さ20～25cm程度の苗を植えて下さい。大苗ではとう立ちが多くなり、小苗では寒害を受けやすく収量も上がりません。
- 葉の分岐点が土の中に埋まらないように2～3cm程度の深さに浅植えし、定植後は充分にかん水します。

かぶ <病害虫防除等について>



- 露地栽培では、白さび病や白斑病の発生に注意しましょう。肥効が落ちた時期に発生しやすいので、葉色が薄い場合などは、追肥を行い、肥効を切らさないようにしましょう。
- 害虫は、アブラムシ類、ヨトウムシ類の発生に注意しましょう。アブラムシ類はモザイク病を媒介するので、薬剤による初期防除を徹底しましょう。ヨトウムシ類も、老齢幼虫になると被害が大きくなるので、若齢幼虫時の防除を行いましょう。

いちご <「さちのか」の管理>



- 草勢に応じ、頂果は10果以下に摘果し、頂果房両側の腋芽2芽を残し、それ以外の腋芽は早めに除去しましょう。
- 最低気温が10℃を下回った頃からハウスの開閉を開始するとともに、ビニル被覆や加温の準備をしておきましょう。
- 電照は11月15～25日頃に開始し、厳寒期の草丈25cmを目標に管理します。草勢を見ながら電照の条件、温度・肥料・水分の管理を行いましょう。

なし <越冬病害虫の防除について>



- 落葉には黒点病等が越冬しており、放置すると翌年の感染源となります。落葉は埋没するか園外に持ち出しましょう。また、
- カイガラムシ類の多かった園では、機械油乳剤を散布しましょう。機械油乳剤はかけムラのないよう、満遍なく散布する事が重要です。

かき <収穫後の管理>



- 礼肥として、早生・中生は11月上旬、晩生は上中旬に施肥しましょう。
- 落葉にはうどんこ病・落葉病、病果には炭そ病が越冬しており、放置すると翌年の感染源となります。埋没するか園外に持ち出しましょう。

レタス <11月の管理について>



- べと病は、低温(10～15℃)多湿条件下で蔓延の危険があります。排水管理に努めるとともに、発生を認めたら直ちに農薬防除を行いましょう。
- 寒害防止と結球促進のため、平均気温10℃を目安にトンネル被覆を行いましょう。

農薬を使用する場合には、ラベルに記載されている内容を確認の上、農薬が周辺圃場等にかからないように注意しながら散布して下さい。散布後には、使用した器具の洗浄を徹底し、薬液を十分に洗い流して下さい。

鳴門藍住農業支援センターのホームページでも掲載しています。

http://www.pref.tokushima.jp/shien/naruto_aizumi/

※提案・お問い合わせについては、鳴門藍住農業支援センターまで

電話番号：088-692-2515